

【全体概要】

- 「シャインマスカット」の作付推進に伴い、同時期（8月下旬以降）に収穫できる赤・黒色の優良品種が求められている。
- そこで、優良品種として「クイーンニーナ」、「グロースクローネ」を推進しているが、着粒不良、着色不良が発生している。
- 栽培技術を確認し、8月下旬以降にブドウの3色セット販売を可能にすることにより生産振興を図る。

新品種・新技術等の概要

○赤色大粒品種

「クイーンニーナ」：食味に優れた大粒品種で、シャインマスカットと同時期に収穫可能。本県では58aを栽培（R2）。

○黒色大粒品種

「グロースクローネ」：高温下でも着色性に優れた極大粒品種。シャインマスカットと同時期に収穫可能。本県での栽培は1aで、ほぼ普及していない（R2）。

○「クイーンニーナ」は、透明袋+傘掛けに加え、白色シートを棚下に敷設することにより、果房周辺量が増え、着色が向上する。

○「グロースクローネ」は、環状剥皮と摘心により花ぶるいが抑制でき、着粒が安定する。

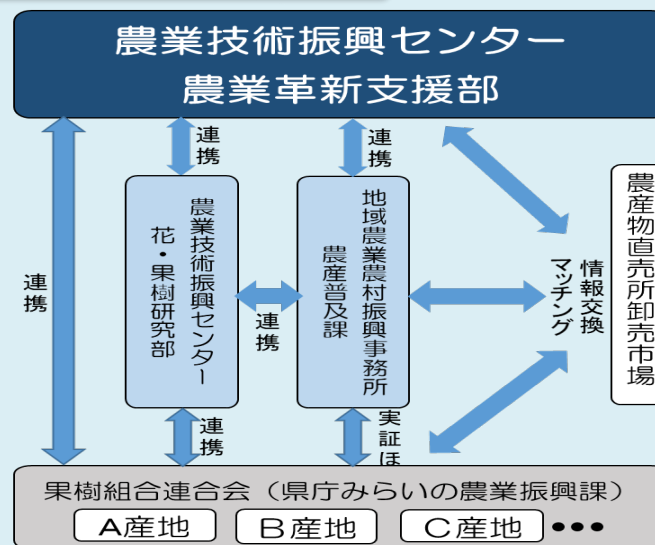
○両品種ともGA1回処理により、枝梗の横への伸長が抑制されしまりのある房となり、また、先端切除等の新たな摘粒方法により省力化、房型が改善する。



主な取組内容

- 「クイーンニーナ」の着色不良、房型改善技術について現地実証ほを4カ所設置した。
- 「グロースクローネ」の着粒安定、房型改善技術について現地実証ほを1カ所設置した。
- 実証ほを活用した現地検討会や実需者、産地等との意見交換を行い、品種や技術の効果について評価を行った。
- 新品種、新技術について、品種特性や果実品質改善効果を確認し、マニュアルを作成し、生産者に広く紹介した。

実施体制図



実績と今後の展開

- 現地検討会や研修会で実証結果を伝えることで、それぞれの品種の栽培面積は、「クイーンニーナ」では58a(R2)→92a(R5)、「グロースクローネ」では1a(R2)→13a(R5)に拡大した。
- 品種特性が把握でき、着色不良対策（透明袋+傘掛け+白色シート）、花ぶるい対策（環状剥皮+摘心）、房型改善対策（GA1回処理、一発摘粒、先端切除摘粒）が確立できた。
- 晩生品種の3色セット販売が可能となり、需要拡大が期待できる。
- 新規栽培者が増えつつあり、GA1回処理や先端切除摘粒は、新規就農者や経験の浅い生産者にとって有効な技術であり、その他品種にも活用が期待できる。